

## 経典

その経典には  
一握りの者たちしか理解できぬ言語が用いられていた

\*

ただ1日が過ぎてゆく——  
義務としての生命を捨てるために必要なものは  
ナイフでもなく、教義でもなかった

平等に授けられた教養は声高に要求した  
選別の結果を無条件に受け入れることを  
そして、ひたすら従順であることを

その代わりに与えられたものは  
この世界に生まれた意味の放棄であり  
単なる機能的エンターテインメントである

理解する必要などない、と教師は優しく宥める  
己の有する知を機能的に駆使するのだ  
そしてただ生きてあれ、そして奉仕するのだ、と

あらゆることが解明されつつある中であって  
装飾こそが唯一残された自由なのだろうか  
ぼろぼろになった個人的理性の部屋を打ち捨てて

あらゆる創造物が喜々として増殖してゆく  
いずれ生命へと格上げされる日も近い  
我々は、そのために奉仕し続けている

かつて巧妙に隠されていた心臓が  
今や、あからさまに鼓動を晒している  
波が岩に打ち付け、泡立つように

既にそれらは被造物ではない  
生き延びる意思を有している

\*

その経典を編纂した者達よ  
己が何を撒き散らしたかを思い知れ

(2012.1.3)